

# 「両手いっぱいのお愛」新聖歌483番

1. ある日 イエスさまに聞いてみたんだ  
どれくらいボクを愛してるの？  
これくらいかな？ これくらいかな？  
イエスさまは だまって ほほえんでる
2. もういちど イエスさまに聞いてみたんだ  
どれくらいボクを愛してるの？  
これくらいかな？ これくらいかな？  
イエスさまは 優しく ほほえんでる

【次】

# 「両手いっぱいのお愛」新聖歌483番

3. ある日 イエスさまは こたえてくれた  
静かに両手をひろげて  
その手のひらに くぎを打たれて  
十字架にかかってくださった  
それは ボクの罪ため  
ごめんね ありがとう イエスさま  
それは ボクの罪ため  
ごめんね ありがとう イエスさま  
ごめんね ありがとう イエスさま

# 106 尊きわが主

神の小羊イエスよ  
とうときわが主よ(×2)  
喜びの新しい歌を  
いつまでも歌います  
主の力あるみわざを  
歌います

新聖歌260番 「わが胸に響く歌あり」

1 わが胸に響く歌あり かつての悪しきしもべが  
心の汚(けが)れ洗われ 喜びもて歌(うと)うなり

\* 血潮(ちしお)にて洗われし わが身ぞ げにも幸なる  
心の汚(けが)れ洗われ 喜びもて歌(うと)うなり

2 よし神の前に行くとも わが身はつゆも恐れじ  
心の汚(けが)れ洗われ きよらの身となりし今

\* (くりかえし)

3 み使いの歌うしらべに わが身の声もとけあわん  
心の汚(けが)れ洗われ 恐れもなく歌(うと)う今

\* (くりかえし)

アーメン

## 使徒信条(しとしんじょう)

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。  
われはそのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。  
主は聖霊によりて宿(やど)り、処女(おとめ)マリヤより生まれ、  
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、  
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、  
三日目に死人のうちよりよみがえり、  
天に昇り、全能の父なる神の右に座(ざ)したまえり。  
かしこより来たりて生ける者と死にたる者とをさばきたまわん。  
われは聖霊を信ず。  
聖なる公同の教会、聖徒の交わり、  
罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、  
永遠(とこしえ)のいのちを信ず。

アーメン

新聖歌275番 「信仰こそ」

- 1 信仰こそ 旅路(たびじ)を導く杖(つえ)  
弱きを強むる力なれや 心勇ましく旅を続けゆかん  
この世のあやうき 恐るべしや
- 2 わが主をかしらと 仰ぎ見れば 力の泉は  
わきて尽きず 恵み深き主の み傷 見まつれば  
わずかに残る火 ふたたび燃(も)ゆ
- 3 主イエスの御跡(みあと)を たどり行けば  
険しき山路(やまじ)も やすけき道  
いかで迷うべき などて疲(つか)るべき  
真直(ますぐ)に御神へ 近づき行かん 【次ページ】

新聖歌275番 「信仰こそ」

- 4 信仰をぞ わが身の杖(つえ)と頼(たの)まん  
するどき剣(つるぎ)も 比(くら)ぶべしや  
代々(よよ)の聖徒(せいと)らを 強く生かしたる  
御霊(みたま)をわれにも 与えたまえ

アーメン

## 主の祈り

天にまします われらの父よ。

ねがわくは 御名をあがめさせたまえ。

御国(みくに)を来たらせたまえ。

御心(みこころ)の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらの日用(にちよう)の糧(かて)を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者を、われらがゆるすごとく、

われらの罪をもゆるしたまえ。

われらをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国(くに)と力(ちから)と栄え(さかえ)とは、

限りなく 汝(なんじ)のものなればなり。

アーメン



新聖歌63番 父 御子 御霊の

ちち みこ みたまの  
おお みかみに

ときわに たえせず  
みさかえあれ  
みさかえあれ  
アーメン